

# 難治性眼疾患の克服にむけて —病態解明と新規治療法開発—

講師：池田 華子 博士

(京都大学 白眉センター・医学部附属病院 特定准教授)

2021年11月11日をもって、医学研究支援センターは開設10周年を迎えました。それを記念して、支援センターを活用して成果をあげられた先生方にご研究・ご活動内容をご紹介いただくセミナー(MRSC Advanced User's Talk Series)をシリーズで開催します。

第5回目は、眼疾患について基礎から創薬を含む臨床研究まで、幅広い研究を進めておられる池田華子博士にご講演いただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2022年3月23日(水) 15:00 - 16:30

定員：100名 (先着順)

開催形態：オンライン(Zoom)

申込方法：以下のURLからお申込みください。

<https://forms.gle/JgLzzeA4wHf4R1Ff9>



申し込み用  
QRコード

1次〆切：2022年3月22日(火)13:00

\* 締め切り後、申込者全員にZoomのURLをメールでお知らせいたします

\* 申し込みフォームからは当日13時まで申し込み可能です

===== 問い合わせ先 =====

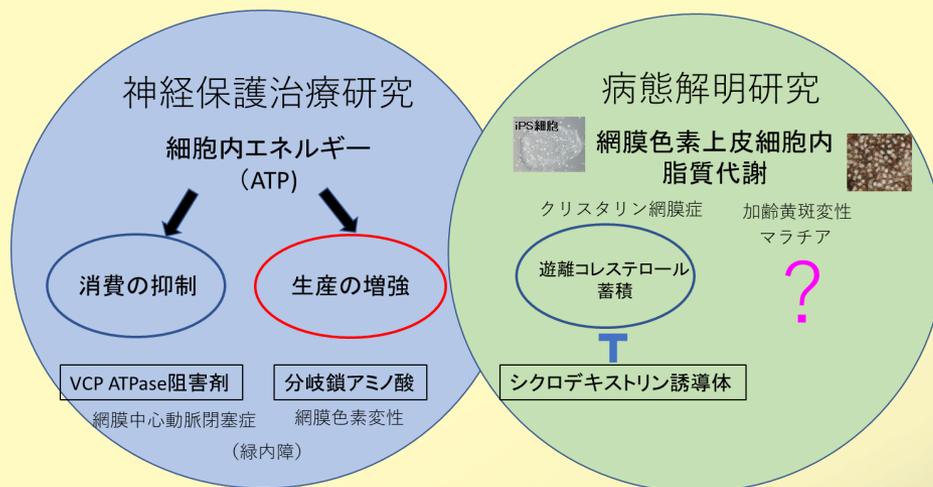
京都大学大学院医学研究科 医学研究支援センター

メール：[info@support-center.med.kyoto-u.ac.jp](mailto:info@support-center.med.kyoto-u.ac.jp)

URL：<http://support-center.med.kyoto-u.ac.jp/SupportCenter>

# 講演要旨

視覚は外界からの情報源の80—90%を占めるとされ、中途失明は生活の質を極端に悪化させる。現在日本における中途失明の原因疾患は、1位緑内障、2位網膜色素変性、3位糖尿病網膜症、4位黄斑変性、5位脈絡膜萎縮となっている。これら疾患に共通するのは、網膜細胞の変性・脱落による視機能低下である。私達は、網膜神経細胞を保護することにより疾患進行抑制を目指す新規治療薬の開発研究を行ってきた。さらに、疾患特異的iPS細胞を用いて網膜変性疾患の病態を明らかにし、治療薬候補の探索中である。薬剤開発には、薬物動態を把握する事が必須であり、質量分析室の先生方には大変御世話になっている。さらに遺伝情報解析室や他の共通機器にも日々御世話になっている。細胞内エネルギー保持による細胞保護戦略、iPS細胞を用いた病態解明研究に関して基礎的研究から臨床研究についてお話をさせていただきたい。



## <文献>

- Exp Eye Res 205: 108503, 2021.
- PLoS One 15: e0229068, 2020.
- Sci Rep 10: 4251, 2020.
- Proc Natl Acad Sci U S A 115: 3936–3941, 2018.
- Heliyon 4: e00544, 2018.
- Heliyon 4: e00624, 2018.
- Sci Rep 7: 44873, 2017.
- Heliyon 2: 00096, 2016.
- Sci Rep 6: 31184, 2016.
- Sci Rep 4: 5970, 2014.